会議結果報告書

１．会議名　令和元年度　第１０回 印西市環境推進市民会議

２．日　時　令和２年３月１９日（金）９：３０～１１：３０

３．場　所　農業委員会会議室

４．出席委員：岩井会長、白川委員、小山委員、平林委員、福井委員、橋本委員

事務局： 黒田、藤原（環境保全課）

５．傍聴者　０名

６．配布資料

・会議次第、席次表

・印西市環境基本計画（案）を巡る議論

７．内　容

（１）開　会

（２）会長挨拶

　（３）議事

①市民会議での検討事項について

会長：前回皆さんからいただいた意見のまとめを白川委員にお願いしたいと思う。

副会長：では、配布した資料に沿って進める。各テーマについて計画に織り込めるような形で、具体的な数値目標等を市民会議として提案していきたい。まとめ方はまた相談したいと思う。初めにその他から見ていきたいと思うが、①基本計画の調査項目の追加、土地利用の変化の把握とあるが、これは具体的にはどういうことか伺いたい。

委員：今後環境基本計画を策定していく際の調査項目に、土地利用の変化、具体的には谷津がどれくらい消滅したか調査をしてもらいたいと思っている。また、みどりの基本計画が来年見直される予定であり、現在調査が行われている。みどりの基本計画と、都市マスタープランは連携しているが、環境基本計画は連携していないのではないかと思う。みどりの基本計画の中で谷津について記載があるため、ここで調べたところ以外の場所を調査してほしい。

副会長：調査はどのような調査項目で行うのか。

市：基本的には生き物や植物の調査を行う。土地利用の変化等は調査項目には入っていない。今回の調査では、前回の調査からどれくらい生き物が減っているか等の調査になる。

委員：耕作放棄地の数や公園の数など他の部署との連携をとり、結果だけではなく、現状分析を入れてほしい。

会長：その他に災害に強いまちづくりとあるが、市民から印西市の公園にはトイレがないという意見があった。

委員：トイレの設置には規定がある。全てについているわけではない。確かにトイレがついていればいいが環境基本計画に掲載する内容ではないように思う。

委員：災害時には簡易トイレの設置ができるため、常時設置する必要はないのでは。防犯上もあまりよくないように思う。

委員：災害時には、誰でも使える手動の井戸があるといいと思う。

副会長：資料の自然環境に移りたいと思う。①グリーンインフラの発想をとりいれるとは具体的にどういうことか。

委員：農業環境を守るということ。具体的には、耕作放棄地にせずせめて田んぼに水を入れておいて、非常時に使えるようにしたり、台地はコンクリートで覆うのではなく、樹木を残して雨が一気に流れないよう地下浸透にし、土の部分を増やしていく。防災にも役立つし食物の危機にも役立つ。農家の人にお願いするだけでなく、草刈など市として守っていくようなシステム作りが必要。農業景観を守るという意味でもこのような取り組みを実施していくことが大切だという発想。

委員：都市の開発計画の中に自然の景観も含めて、緑の持つ力を利用した開発を取り入れるべきという考え方が国でPRされている。

副会長：グリーンインフラという言葉自体があまり浸透していないように思う。用語説明に取り入れるなどして広めていく必要がある。

委員：国の補助金で農家の人へ補助金が出る。ただ申請がややこしくて大変。

委員：農家も高齢化しており、農家に携わっていく人を作っていかなければならない。農家を守るためには人づくりも大切。家だけでやるのは厳しい。組織にしないと若い人は入ってこない。

副会長：若い人が農業の研修に来ても10日も持たない。現状は厳しい。

　会長：自然環境の中の、③SDGｓとの関係とあるが、すべての項目に関係してくるため、いれるとすれば最初に入れた方がいいと思う。

委員：④ハザードマップと重ねて保全地域を決めるというのもグリーンインフラと関係している。環境基本計画の中にもこのような考え方を入れたい。

会長：⑤について、窓が小さいほうが暖かい。電車やバスに乗らずにその中で生活できるようなコンパクトシティを国が推奨している。牧の原はそれに近い気がする。

委員：その分小さな家は暑いためエアコンを使用しており、ヒートアイランドが気になる。

委員：⑥について、ゴルフ場周辺に谷津が残っており、湧水がある。市民団体が守っている場所や巨木のあるところを谷津保全の重点地域とし、そこにゴルフ場周辺をいれる。また、ゴルフ場利用税をうまく活用する。地域によってはこの利用税を谷津の保全に活用しているところもでてきている。

副会長：⑦ボランティア活動のポイント制とは具体的にどのようなことか。

委員：⑦について、自然ボランティアとしていただきたい。具体的には、介護ボランティアといって、老人ホームなどの施設でボランティアをするとスタンプが貰え、50個溜まると社会福祉協議会から5千円もらえる制度がある。それと同じように自然ボランティアとしてできればいい。市民団体でボランティアを管理する。団体は高齢化や人手不足が深刻となっている。

副会長：市でボランティアにお金を出すことはできるか？

市：とてもいい案だとは思うが市でお金をだすのは難しい。ただ、介護ボランティアは、施設で働いている方は社員としてお金をもらっているためこのような形で実施できているが、自然ボランティアで同じような形をとるとすると、日頃活動している市民団体の方々はボランティアとして実施しておりお金をもらっているわけではないので、市民団体にははいらずに、自然ボランティアとして活動したほうがお金がもらえるため、市民団体に所属する人が減ってしまうような気がする。

委員：ボランティアを推進するような制度作りが大切であると考える。

副会長：⑧外来種対策については具体的にはどのようなことか。

委員：具体的には、アメリカザリガニ等ペットは最後まで飼うことや、バスやブルーギルは釣ってもリリースをしないこと。このようなことについて条例化が望ましい。

委員：印旛沼ではバスやブルーギル釣り大会が開催されている。

委員：そのような大会は辞めていただき、釣ったものはその場で処分をしていただきたい。

会長：禁止にするなら条例で罰金を取るなどして厳罰化が望ましい。

委員：⑪大型鳥類について、守るべきでない大型鳥類もいるため、文言を変え、⑧外来種対策と一緒にしていただきたい。手賀沼のコブハクチョウへのエサやりは辞めたほうがいい。農家の稲を食べてしまう。

委員：コブハクチョウは綺麗なため、みんなエサをあげてしまう。非常に難しい。

委員：⑫PM2.5と⑬光化学スモッグは生活環境にいれていただきたい。九州では毎日数値を放送している。光化学スモッグは夏場にたまに発生するため、なにかできないかと思う。大気について問題があるとすればこの2点である。

会長：どちらも自分たちではどうしようもないため難しい。

委員：車を増やさず、ふれあいバスを電気自動車に変えるなどが必要。

委員：トラックの排気ガスを全て吸収できるくらいの樹林地を車庫周りに増やすといったことをしないと厳しい。

副会長：まとめ方としては項目について計画に盛り込めるような形で数値目標などといった

ものがあれ教えてほしい。

委員：市民会議の委員の募集はどうなったか。

市：残念ながら応募はなかった。

委員：若い人は働いているため難しい。時期的なものもあるかもしれない。

市：これをもって今年度の市民会議を終了する。来年度はまた改めて通知をだすが、令和２年５月１５日（金）9時30分から２０４会議室にて予定している。

令和元年度　第10回　印西市環境推進市民会議の議事録は、事実と相違ないことを

承認する。

令和２年３月３１日

　　　　　　　　　　　委員　　橋本　千代子

委員　　平林　光子